

藻類・貝類養殖の普及促進

(ヒジキ関係：全国豊かな海づくり協会 漁村研究実践活動助成事業)

水産技術開発センター 企画・栽培養殖部

【背景・目的】

本県の漁業は、資源の減少傾向、魚価の低迷、燃油資材の高騰など、依然として厳しい経営環境にあり、漁業担い手の減少が続いている。

このため、沿岸漁場の高度利用や収益性の高い漁業の導入等について調査研究を進めるとともに、導入が可能な技術の実証試験を行うなど、生産現場への普及定着を進め、魅力ある漁業の創出と漁業担い手の確保育成を図る。

【普及内容・特徴】

1 ヒジキ養殖技術の普及・改良

- (1) 県下関係者を参集した養殖技術研修会を開催した。
- (2) 鹿児島湾地域における試験養殖を実施した。
- (3) 種苗挟み込み作業省力化を図るため、ロープへの幼胚直付け試験を実施した。
- (4) 干出による付着生物防除効果や生長等を検討するため、支柱式海苔養殖網にヒジキ挟み込みロープを括り付ける方法により干出式養殖試験を実施した

2 ワカメ種苗供給体制の再構築

- (1) 県内種苗供給業者の種苗生産・培養技術(止水式)を点検した。
- (2) センターにおいて、流水式の種苗生産・培養試験を実施した。
- (3) ワカメ養殖不調地域における生育不良等の現地調査を実施した。

3 貝類(カキ類)養殖技術の調査

前年度から引き続き北薩地区2漁場においてカキ類の試験養殖調査を実施した。

【成果・活用】

1 ヒジキ養殖技術の普及・改良

鹿児島湾の11漁協12漁場において試験養殖を実施した結果、生産目標の10kg/mを達成した漁場もあったが、施設構造、養殖密度、収穫時期など、多くの課題が残った。

特に、試験養殖開始以降、年が経過するごとに、サメハダコケムシ、ウミシバ類の他、新たな付着生物が見られており、この対策が最も重要な課題となっている。

種苗挟み込み労力の省力化のためのロープ幼胚直付け試験では、ヒジキ葉体は脱落することなく固着し、生長の良い部分では4.5kg/mの収量が得られたが、直付け後のロープ管理(海面での越夏管理)等を考えると、挟み込み作業と比較して省力化といえるかは疑問であった。

また、付着生物防止効果確認等のための干出養殖試験では、結果的に干出部位でのヒジキ生存は見られず、所期の効果確認をすることはできなかった。

2 ワカメ種苗供給体制の再構築

県内種苗供給業者に対して、技術の点検結果に基づく種苗生産・培養マニュアルをさらに改良し、翌年度に備えた。

3 貝類（カキ類）養殖技術の調査

北薩地域の2漁場におけるカキ類試験養殖の経過状況を調査した。イワガキは順調な成長が見られたがマガキでは身入りが思わしくない事例が見られた。



幼胚直付けロープの海面管理状況



ロープに繁茂したヒジキ種苗



直付けロープでの生長状況（最大で1.8mまで生長。）



支柱式による干出養殖試験。傾斜を付けた海苔網にヒジキ種苗を展開。



クレモナ燃糸にヒジキ種苗を挟み込み、更にロープに巻付た後に網に展着した。



大潮最干時干出2時間の網高さでは、設置翌日には黒く変色し枯死した（晴天）。